

外国語活動



教科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

外国語活動導入と英語の教科化



小学校段階での外国語活動を通して養われる積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみは、中・高等学校で目指すコミュニケーション能力の素地となります。その素地を小学校段階でつくることが重要と考えられ、中学年から35時間外国語活動が新設されました。さらに、高学年では、70時間教科として「英語」が新設されました。

各学年の内容



3・4 学年 外国語活動

・児童に身近で基本的な表現を使いながら、外国語に慣れ親しむ活動や児童の日常生活や学校生活にかかわる活動を中心に、友達とのかかわりを大切にしたい体験的なコミュニケーション活動を行います。

○聞くこと・話すこと

※友達や家族、地域、社会とのつながりに焦点を当てた活動です。例えば「あいさつ」「世界のいろいろ」「好きな曜日」「学校生活」「遊び」「日常生活」「食事」など身近な話題に関してやり取りをします。これらの「やり取り」を通して相手とのかかわりわりを深めます。

5・6 学年 英語

・友達とのかかわりを大切にしながら、児童の日常生活や学校生活に加え、国際理解にかかわる交流等を含んだ体験的なコミュニケーション活動を行います。また、大文字、小文字を活字体で書いたり簡単な語句を写したりする活動を行います。

○聞くこと・話すこと (やりとり・発表)

○書くこと

※「世界のさまざまなあいさつ」「世界の文字」「世界の子どもたちの生活」「夢」などを扱うことで、児童の視野を世界へ広げるとともに、日本の文化、国語、自分自身にも興味を持たせていきます。

授業の工夫

●外国語指導助手（ALT）の活用

ALTの協力を得て授業を進めます。実際の外国語の音声やリズムに慣れ親しんだり、日本と外国の生活や習慣、行事などの違いについて理解を深めたりします。

●児童が主体的に、楽しく取り組める授業の展開

児童が積極的にコミュニケーションを図ろうとする場面を設定します。歌やチャンツを通して、外国語の音声やリズムに楽しく慣れ親しみます。簡単なゲームを通して、身近な英語表現を学びます。



評価について

●児童一人一人の良い取組や頑張りを認め、賞賛しながら児童の意欲を高める評価に努めます。

☆ 次の3つの柱を基に評価します。

- (ア) 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- (イ) 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。
- (ウ) 言語や文化について体験的に理解を深める。

☆ いろいろな面から子どもを見つめます。「~できる」といったスキルの評価はしません。外国語を学ぼうとする態度や友達との関わりを重視した評価を行います。

例えば・・・

- ・発言、発表の様子
- ・友達と関わり方
- ・歌・ゲーム等の取組み方



保護者の方へ

小学校の外国語活動では、中学校・高校につながるコミュニケーション能力の土台をつくります。

外国語活動で一番大切なことは、何より楽しく活動することです。積極的にコミュニケーションを図ること、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことが目標です。また、外国語活動を通じて、友達との関わりも大切にしていきます。

イメージ図

中学校・高校の
コミュニケーション
能力へ

小学校では

土を耕して、種まきを
します。